2007年8月14日（火曜日）讀賣新聞地方面

森と森つなぎ　を保護

アニマルパスウエー完成

低コストで実効性証明

国天然記念物のニホンヤマネが生息する北杜市の清里高原の市道上に小動物が行き来するための橋「アニマルパスウエー」が完成した。森と森をつないでヤマネやリスの生活圏を結び生態を保護するのが目的だ。地元の「キープ協会」や「やまねミュージアム」や大手建設会社などで作る「アニマルパスウェイ研究会」が開発し、同市が約200万円で建設した。

環境省野生生物課は「公道をまたぐ小動物用の橋は大変珍しい」としている。同ミュージアム館長の湊秋作さん(54)は「低コストで実効性もある。これを機に全国に普及してもらいたい」と話している。

ニホンヤマネ（湊秋作さん撮影）

橋は一辺約30㌢の三角形の鉄製フレームにアルミ製の屋根を取り付け、銅製の網を敷いて作った。全長約15㍍、幅約7㍍の車道を約6㍍の高さでまたいでいる。ヤマネやリスは、道両側に広がる林の木の枝や道路脇の電柱から橋に行き、金網の上を行き来できる仕組みだ。フクロウなどの天敵から身を守るための小さなトンネルも設けられている。

清里高原では1998年に清里高原有料道路（現在は無料化）が建設された際、県が同道路上に獣用の金属製の「ヤマネブリッジ」を作った。しかし、建設費が2000万円にも上ったことなどがネックになり普及できずにいた。

同研究会は2004年、同ミュージアム、ニホンヤマネ保護研究グループ、大成建設、清水建設が結成。経団連も環境保全活動に共鳴、資金を援助した。対象をヤマネなどの小動物に限定して小型化を図るなどの改良を加え、10分の1のコストダウンに成功した。

05年10月からキープ協会の敷地内に実験用の橋を作って実態調査をすると、リスはもとより、ヤマネの通行も確認された。この調査結果に突き動かされた形で北杜市が、「市のシンボル的存在であるヤマネの保護に向け協力したい」と、アニマルパスウエーの建設を予算措置。先月27日に完成し、10日未明、ヤマネの通過が初めて確認された。

市林政課は「橋の実効性を踏まえて新たな橋の増設も考えたい」と前向きだ。

湊さんは「動物の種類にあわせて様々なパスウエーの建設が可能。県内では小海線の線路上や富士スバルラインなどでも作れれば非常に有効だ」と話している。

実験用の橋を通過するリス（2006年5月2日、北杜市高根町で）（大成建設・大竹公一さん撮影）

完成した「アニマルパスウエー」（9日午前11時ごろ、北杜市大泉町の市道で）

キープ協会　米国出身で〝清里開拓の父〟、ポール・ラッシュ氏（1897～1979）によって、1948年に設立された財団法人。キリスト教研修施設として建てられた「清泉寮」を中心に、環境教育、国際協力、酪農などを通し、持続可能な社会の実現を目指している。